

未練の幽霊と怪物

「珊瑚」

「円山町」

【作・演出】

岡田利規

独占インタビュー

「劇場で幽霊を幻視する体験を」

（取材・文：岩本和子）



©Kikuko Usuyama

能と演劇を織り交ぜ、現代社会を照射する『未練の幽霊と怪物』。大きな話題を呼んだ伝説のステージの新作が、2026年春、兵庫に登場！国際的に活躍する演劇作家・岡田利規さんに、ドイツから帰国直後、作・演出にかける想いをお聞きました！

—第2弾は、新作の「珊瑚」「円山町」です。

「珊瑚」の舞台は沖縄の辺野古です。「沖繩」という一般的に明るいイメージのある土地と、「円山町」——これは東京・渋谷の地名なのですが、あまり広く知られていない町。この2作を並べることで、それぞれの土地の持つコントラストも感じてもらえるのではないのでしょうか。

—主役は、「珊瑚」がアオイヤマダさん、「円山町」が小栗基裕さんですね。

アオイさんには珊瑚の霊を、小栗さんには女性の霊をやってもらいます。以前、小栗さんに女性のしななを作ってもらったのですが、すごく説得力がありました。

—2作品とも、後半は音楽と謡と舞が中心になるとのことです、お二人のダンスも楽しみにしています。

キャストの皆さんとはどんなお話をされているのでしょうか？

2025年の夏に出演者全員でワークショップをしました。清島千楓さんは沖縄出身なので、「珊瑚」については沖縄の立場から話をしてくれて、その視点はとても大きかったです。前回に続いて出演してくださる片桐はいりさんも、作品で扱う題材について思っていることをたくさん言ってくれるなど、全員がディスカッションしながらクリエーションができる方たちなので、すごく楽しかったですね。

—謡手に里アンナさんを起用された理由は？

今回の謡手は誰がいいですかと内橋さんにご相談した時に、内橋さんが里さんのお名前を挙げられました。「珊瑚」という作品のイメージと奄美大島出身の里さんが結びついたのかもしれない。音楽は内橋さんにすべてお任せしているのですが、里さんの謡がどのように乗るのか、

僕も楽しみにしているところです。

—最後に、兵庫県立芸術文化センターのお客様へメッセージをお願いします。

『未練の幽霊と怪物』は、僕が作る作品の中では例外的と言っているくらいわかりやすい作品です。謡があつて、ダンスがあつて。それだけでもう楽しそうじゃないですか。この作品は、幽霊という実存しないものが舞台上に現れます。皆さんは劇場で、いわば集団で幽霊を幻視する体験をすることになります。これはなかなか不思議な感覚を味わってもらえると思います。

—能の知識は必要でしょうか？

能の知識がなくても大丈夫です。し、おそらく観終わった後に「能ってこういうものなのかな」と気になって、自ずと調べ始めると思います。

—『未練の幽霊と怪物』は能のフォーマットを応用された作品です。能に着目された理由を教えてください。

なんとなく幽霊という存在に関心を持ち始めたんですね。これはあくまでも演劇的な意味ですが。幽霊と演劇は相性がいいなと思っただけです。改めて考えてみれば、能は幽霊が出てくる仕掛けになっている。それで能をモチーフにした作品をいくつか作りました。僕にとって一番大きかったのは、その後、『池澤夏樹Ⅱ個人編集 日本文学全集』（河出書房新社）に収録

するために能の現代語訳をしたことです。演目選びも担当することになったので、能をたくさん読みました。それがすごく面白かったです。そして2018年にドイツの公立劇場と「NOTHEATER」を作り、日本で『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』を作りました。『未練の幽霊と怪物』で扱える話はいくらでもあつて、僕としてはいつでも、いくらでもやりたいと思つていて、音楽監督の内橋和久さんとも「またやりたいね」としゃべっていたところ、ありがたいことに上演のチャンスをいただけました。



『未練の幽霊と怪物』「挫波」【敦賀】—2021年上演より 撮影：高野ユリカ / Yurika Kono

『未練の幽霊と怪物』の魅力に迫る！ おすすめポイント3選

- ① 演劇界の賞を続々受賞！
- ② 生演奏×生謡×踊りで世界観へ没入！
- ③ いないはずの幽霊がみえるかも…!?

2026 3/7 (土) 15:00・8 (日) 13:00 兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール 【全席指定】7,000円(税込)

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255

10:00-17:00 月曜休み ※祝日の場合翌日

好評
発売中

はじめてでもわかる!

『未練の幽霊と怪物』徹底解説!

能のフォーマットを応用し、「シテ」=主人公が **霊** として登場する「夢幻能」の形式に則っている。初演は2020年に予定していたが、緊急事態宣言で公演延期。1年後に上演を果たした。演目は、ザハ・ハティドが主人公の「挫波(ザハ)」と高速増殖炉もんじゅをめぐる「敦賀」。森山未來と石橋静河がそれぞれシテを務めた。

第25回鶴屋南北戯曲賞と**第29回読売演劇大賞優秀演出家賞**を受賞。さらに戯曲集が**第72回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞**を受賞。第2弾でも現代社会の巨大な構造の中で犠牲となった、膨大な未練の思いを残す存在を鮮やかに表出させる。「珊瑚」でアオイヤマダが、「円山町」で小栗基裕がシテを、石倉来輝、七瀬恋彩、清島千楓がシテの相手役である「ワキ」、「ワキツレ」、前場と後場の橋渡し役的存在の「アイ」を片桐はいりが務める。**音楽、謡、言葉、身体表現**でドラマを綴り、**霊**の心情を浮かび上がらせる。音楽監督・演奏は内橋和久。謡手は奄美大島出身の里アンナ。(文=岩本和子)



『未練の幽霊と怪物』「挫波」「敦賀」|2021年上演より
撮影:高野ユリカ / Yurika Kono



『未練の幽霊と怪物』「挫波」「敦賀」|2021年上演より 撮影:高野ユリカ / Yurika Kono

Comment



今、注目! 気鋭の表現者、ダンサー、俳優、モデルなど多彩な活動を展開

©NaokoHasegawa

アオイヤマダ / シテ(主人公)

私の脳裏にべったりとくっついてしまった2021年の岡田利規さんの作品『未練の幽霊と怪物』「挫波」「敦賀」。題材となった千駄ヶ谷を通るたびに思い出し、あらゆるものの点とこの作品とが繋がっていく。敦賀に関しては「日本海の魚美味しいよね〜」という会話からも思い出すようになった。作品を思い出すときには、それと繋がった多くの思い出が溢れ出てくる。幽霊みたいな記憶が、私の思い出たちと手を繋いでいる。きっと、この先も一緒に生きていくんだろうな。そんな幽霊みたいな記憶を、私も作りたいです。宜しくお願い致します。



世界的ダンスパフォーマンスグループ s**t kingzメンバー

小栗基裕(s**t kingz) / シテ(主人公)

武者震いが止まりません。踊る者として、俳優として、表現者として、このような素晴らしい機会を授かったことに心も身体も震えております。前作の『挫波/敦賀』を食い入るように見終わった後の凄まじい余韻。人間の想像力と創造力が一つの空間をこんなにも別世界へと変えてしまうのかと、全身に入っていた力が溜め息と共にすーっと抜けていきました。この衝撃を受け継ぎ、届けるという使命を背負い、自分にしか出来ない表現を見出し、積み上げてきた全てを信じて、新たに岡田さんが創り出す未知の世界に飛び込ませて頂きます。観に来てくださる皆様の身体の芯まで響かせられますように。



第1弾にも出演し唯一無二の存在感を放つ! 第60回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞!

片桐はいり / アイ

前は特別だった。2020年4月の緊急事態宣言で劇場公演が中止になり、誰とも一度も会うことなくリモートで稽古、その一部を配信で上演した。毎日ひとりで、慣れない機械操作と岡田さんの独特な台詞と動きに七転八倒した。そして翌年、同じく延期された東京五輪の前に、安全な距離を保った劇場で本番の時だけマスクをはずしてやった。特別な時間だった。けど今じゃ「そんなことあったねえ」みたいな空気。なんて忘れっぽいんだ。今度また、すでに記憶の彼方の幽霊や、なかったことにはできない怪物たちを呼び戻して新作をつくることになった。今いちど新しい人たちと、2026年のやり方でこの作品に挑めることはとてもありがたい。でも少しこわい。

2026 **3/7**(土)15:00・**8**(日)13:00 **【全席指定】** 7,000円(税込)

兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス **0798-68-0255**

10:00-17:00 月曜休み ※祝日の場合翌日

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。※やむを得ない事情により、出演者等が変更となる場合があります。

作・演出: 岡田利規 音楽監督・演奏: 内橋和久
出演: アオイヤマダ 小栗基裕(s**t kingz) / 石倉来輝 七瀬恋彩 清島千楓 / 片桐はいり
謡手: 里アンナ



主催: 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
企画制作: KAAT神奈川芸術劇場

好評発売中